

龍馬生誕 190 周年事業  
収蔵品展 「龍馬の評伝」展 開催要項

1. 趣旨

坂本龍馬は日本史の中で織田信長と並ぶ有名人でありながら、その功績を明確に捉えることは難しい。なぜなら、龍馬は優秀な調整役であり戦略家であるため、常に裏方として貢献しているからである。いつの時代も裏方の功績は公式記録に記載されないため、時間が経てば忘れさられてしまう。

そこで、本展では龍馬と面識のある同時代の人たちの龍馬評をパネルで紹介することで、龍馬の功績や実像を知ってもらいたい。同時に、龍馬評を残した人々に関連する資料を所蔵品の中から展示し、龍馬と交流のあった人々の息吹を感じながら、理解を深めていただきたい。

2. 会期 令和7年9月20日（土）～令和7年11月24日（月・祝）（66日）

会期中無休

開催時間 9：00～17：00（最終入館16：30）

3. 観覧料 一般900円（20名以上の団体720円）、高校生以下無料

高知県または高知市長寿手帳所持者、及び身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名無料

4. 関連事業

令和7年度連続講演会第三回 講師：宮川禎一氏（元・京都国立博物館特任研究員）

令和7年11月8日（土）13：30～15：00

5. 問合せ先

〒781-0262 高知市浦戸城山830

高知県立坂本龍馬記念館

TEL 088-841-0001 FAX 088-841-0015

担当：学芸課長 三浦夏樹

龍馬生誕 190 周年事業  
収蔵品展 「龍馬の評伝」展 内容

【展示の流れ】

1 龍馬像の変遷

龍馬は明治時代前半の自由民権期には自由の先駆者、日露戦争から第二次世界大戦終結までは海軍の守り神、戦後には平和主義者、というように、時代が変われば龍馬のイメージも変わってきた。「海軍の守り神」と「平和主義者」では相反する人物像だが、どちらも龍馬の一面としては正しく、どの部分を抽出し、膨らませて見せるかの違いであった。龍馬を正しく理解するためには、ある一面だけではなく、全体を知る必要がある。

同時代人から見た人物像（人柄）

1. お龍
2. 田中光顕
3. 殿入力
4. 武市半平太
5. 坂崎紫瀾
6. 平井収二郎
7. 三吉慎蔵
8. 木戸孝允
9. 関義臣
10. 大久保一翁
11. 徳富蘆花
12. 中江兆民

2 戦略家・龍馬の思考方法

通称「ねぶとの手紙」（元治元年 6 月 28 日乙女宛）や大政奉還直前の木戸と龍馬の往復書簡を見ると、龍馬は常に用意周到な人物である。目標を定めれば、まず情報を集め、有能な人材を集め、策を巡らせ、機会を見極め、勝つ可能性を最大限高めてから行動を起こす人物である。

「日本のせんたく」や「薩長同盟」についても時期を見極め、誰に話を持って行けば実現するのか、常に作戦を練ってから行動に移す。

同時代人から見た龍馬

13. 陸奥宗光
14. 長井長義
15. 大山巖
16. 東久世通禧
17. 永井尚志

3 戦略家・龍馬の実践（龍馬の大勝負）

龍馬が後藤象二郎とともに心血を注いだ大政奉還は、山内容堂との思惑の違いから無意味な策になりかけていた。容堂は徳川家への恩義から兵力を背景に用いた大政奉還を明確に否定した。佐佐木高行が語っている通り、容堂の考えを真正面から変えようとしても不可能である。そこで龍馬は慶応 3 年 9 月 4 日付けの木戸書簡とライフル銃千挺を持って芸州藩の船で土佐へ帰った。

- ※ なぜ芸州藩の船を借りてライフル銃と木戸書簡を運んだのか？
- ※ 薩摩藩や土佐藩の船、海援隊の船・横笛などではだめだったのか？

同時代人から見た龍馬

18. 佐佐木高行 19. 板垣退助

龍馬の本質

龍馬が新しい時代を見据えて目指していたものは多数あり、すべてを実行しようとしていた。

- ① 海軍の創設
- ② 薩長の同盟
- ③ 新政府綱領八策（立憲政治、二院制議会、不平等条約撤廃、陸・海軍創設、為替レートなど）
- ④ 全国で通用する初めての紙幣の発行（新しい経済システムの構築）
- ⑤ 蝦夷開拓（国境の画定）
- ⑥ 英語テキストと法律の本を出版（国民の啓蒙）
- ⑦ 蒸気船による運輸（人と物資の新しい輸送システム）
- ⑧ 世界へ行く

これらを達成するために最も大切なことは、優秀な人材の確保である。⑧の個人的な夢以外、すべて近代国家にとって必要なことであり、龍馬一人ですべてを成し遂げることは不可能である。そのため専門能力を持った優秀な人材とネットワークを構築し、龍馬はおもに裏方となる。龍馬自身は法律に詳しいわけでもなければ、英語が堪能なわけでもない。経済の専門家でもないし、船の操船技術に長けていたわけでもない。龍馬の役割は人をスカウトし、人をまとめ、人を適材適所に配置し、物事が成功するようにお膳立てを行う役割である。

龍馬という人物は、抜け目ない戦略家で、戦いに勝つ、あるいは事業を成功させるためには八方手を尽くして準備を行う。そして人を見極めて託す。これがまさしく戦略家・龍馬の本領だといえる。

同時代人から見た龍馬

20. 勝海舟 21. 土方久元 22. 宮地彦三郎 23. 西郷隆盛